

教育・保育及び地域子育て支援事業の課題について

ニーズ調査集計結果から、課題となりうる項目として、割合が大きい項目、前回調査と比較してニーズが増加した項目等についてとりまとめた。

1. 就学前

問9：子どもをみてもらえる親族・知人の有無

「いずれもない」7.4%（前回6.1%よりも1.3ポイント増加）回答者55人

◆現有サービスでは、ファミリー・サポート・センターの活用推進（利用状況：2.3%に対し今後の利用意向：26.9%）

問10：気軽に相談できる人の有無

「いない／ない」5.3%（前回5.3%と変わらず）回答者39人

⇒ 問9、10については、数字の上からは少数派であるが、孤立化しやすい状況におかれている保護者がこれだけの人数いることになる。アンケート回収率(49.6%)を勘案するとそれぞれ111人、79人となる。

◆「子育て話何でも聴きます窓口」の告知（認知状況：24.4%、利用状況：2.4%、今後の利用意向：34.1%）

◆「子育て支援センター」利用状況（利用していない：78.8%）（後述）

◆「子育て支援センター」に求めるもの（土日祝日の開設：46.4%【1位】）

問18：家庭の経済状況

「普通」42.0%、「やや苦しい」37.5%、「大変苦しい」11.3%

「やや苦しい」+「大変苦しい」=48.8% ⇒ ほぼ半数となっている。

◆子育てだけでなく、就業状況や他の支出の可能性もある。利用可能な助成金、生活福祉資金貸付制度、生活困窮者自立支援制度にもつなぐことができる相談窓口（現、福祉の窓口課）と連携推進。

問21：一番負担となる教育・保育費

「保育料」42.1% ⇒ 次点は「特に負担は感じない」24.4%になっており、「保育料」が突出

◆上記、「家庭の経済状況」と同等。

(幼児教育・保育の無償化による軽減も見込まれる)

問22：興味のある支援制度等

「学校が実施する補講(学習支援)」32.1%、「学校以外が実施する学習支援」25.2%、
「子ども食堂」19.7% ⇒ 学習面、食事への支援の期待が大きい。

◆期待の大きいところであるが、運営、人材の課題も大きい。人材には、高校生、
大学生のボランティア等が参加できるようにし、地元で愛着がもてる機会としても
活用する。

問23-2(2)：定期的に利用したい教育・保育事業の希望の利用日数(全体)

現在6日利用4.2%に対し、6日利用希望9.5% ⇒ 6日利用希望が大きく上回る。

◆詳細対応下記にて

問23-2(2)：定期的に利用したい教育・保育事業の希望の利用日数(幼稚園)

現在6日利用0%に対し、6日利用希望5.4% ⇒ 6日利用希望が大きく上回る。

◆園による6日利用(土曜日と想定)への対応が難しい場合に、土曜日のみ他サービス
による対応の検討。

問23-2(2)：定期的に利用したい教育・保育事業の希望の利用日数(保育所(園))

現在6日利用6.8%に対し、6日利用希望12.9% ⇒ 6日利用希望が大きく上回る。

◆保育園は土曜開園のため、日曜開園(合同運営)、他サービスによる対応の検討。

問23-8：保育園での幼稚園教育の利用意向

「利用したい」60.8% ⇒ 「文字や数字の読み書きに親しむこと」20.6%(問24
：保育園での幼稚園教育に求めるもの)

問34(1)：土曜の定期的な教育・保育の利用希望

「ほぼ毎週利用したい」10.0%、「月に1～2回は利用したい」22.0%

⇒ 土曜利用希望32.0%

◆問23-2(2)同様

問34(2)：日曜・祝日の定期的な教育・保育の利用希望

「ほぼ毎週利用したい」3.1%、「月に1～2回は利用したい」14.0%

⇒ 日曜・祝日利用希望17.1%

◆問23-2（2）保育園と同等

問36：病気や怪我で登園できなかったこと

「あった」79.9% ⇒ 約8割の子どもが該当、母親が休む場合が約7割（問36-1）

◆病児の受入体制の確保について（下記）

問36-1：病気や怪我で登園できなかった場合の対処方法

「父親が休んだ」23.5%、「母親が休んだ」65.6% ⇒ 母親の場合が父親の場合を大きく上回る。

◆病児の受入体制の確保について（下記）

問36-2：病児・病後児のための保育施設等の利用意向

「できれば利用したい」47.8%、「利用したいとは思わない」47.4%

⇒ 概ね同じ割合

◆「できれば利用したい」ニーズに対して、対応可能な医療機関等への依頼、他市町との連携を検討する。

問36-4：病児・病後児保育施設等を利用したいと思わない理由

「親が仕事を休んで対応する」58.0%、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」51.4% ⇒ 自分で見ようという人が半分以上

問27：地域子育て支援事業の認知状況（子育て支援センター）

「知っている」75.3% → 問28：「利用していない」78.8%

⇒ 知ってはいるが、利用することがない。

◆（下記に含む）

問30：子育て支援センターに求めるもの

「土日祝日の開設」46.4% ⇒ 開設曜日により大幅な利用増が見込まれる。

◆「ダンスやリトミック等の教室開催」に対する希望も44.1%あり、実施内容や告知により利用が多くなることが見込まれる。

問40、41：放課後過ごさせたい場所

「放課後児童クラブ（低学年）」37.9%（前回29.3%から8.6ポイント増）

「放課後児童クラブ（高学年）」20.5%（前回13.4%から7.1ポイント増）

⇒ 放課後児童クラブの利用希望大幅増加

◆増加に対しては、ハードルも高いところであるが、例えば場所については、商工会等から休眠テナントの紹介を得る等の手段も考えられる（子育てのみのテーマではなく、地域福祉の課題解決の事例として）。

問45：児童虐待と感ずる行為

「子どもがふざけている時に、大声でどなりつける」22.5%

「子どもが理解するまで、長時間かけて説教する」32.8%

⇒ 虐待の認識が希薄（虐待する親は、虐待しているという認識がない。）

◆幼稚園、保育園等を通じた配布物や保護者への説明の機会を作る。

問45-4：虐待行為を見聞きして通告しなかった理由

「虐待かどうか判断できなかったから」65.5%

⇒ 判断が不要であることの認識がない。

◆同上

問46：今後、充実を希望する子育て支援サービス

「保育料の軽減の拡充」40.5%

「子どもの就学に係る費用の軽減」38.1%

「無料学習塾の充実」28.1%

「児童館・放課後児童クラブ・放課後子ども教室の充実」27.4%

⇒ 費用負担に関する要望が多い。

◆費用負担、無料学習塾に関しては、前述。

2. 小学生

問9：気軽に相談できる人の有無

「いない／ない」6.5%（前回6.3%から0.2ポイント増）

◆同就学前

問15：家庭の経済状況

「普通」38.3%、「やや苦しい」37.2%、「大変苦しい」15.1%

「やや苦しい」+「大変苦しい」=52.3% ⇒ 半数以上となっている。

◆同就学前

問24：放課後過ごさせたい場所

「放課後児童クラブ」12.4%（前回10.4%から2.0ポイント増）

⇒ 放課後児童クラブへの利用希望増加

◆同就学前

問28：放課後子ども教室への参加意向

「参加させたい」46.6%、「参加させたくない」11.0%、「わからない」40.8%

⇒「参加させたい」が「参加させたくない」の4倍以上

◆放課後子ども教室への期待も大きいと考えられる。希望する活動についても「学力が向上する活動」68.7%、「体力向上や体育を指導してくれる活動」65.7%に希望が多い。「新・放課後子ども総合プラン」での対応予定もあるかも知れないが、準備まで時間を要するようであれば、1箇所での試験的（トライアル）運用からの導入も検討する。

問34：児童虐待と感ずる行為

「子どもがふざけている時に、大声でどなりつける」16.2%（就学前22.5%）

「子どもが理解するまで、長時間かけて説教する」23.6%（就学前32.8%）

⇒ 虐待の認識が希薄（就学前よりも全体的にポイントが低い。）

◆同就学前

問34-4：虐待行為を見聞きして通告しなかった理由

「虐待かどうか判断できなかったから」54.8%

⇒ 判断が不要であることの認識がない。

◆同就学前

問35：今後、充実を希望する子育て支援サービス

「子どもの就学に係る費用の軽減」46.3%

「無料学習塾の充実」38.3%

「公民館や学校の図書室の充実」29.7%

「児童館・放課後児童クラブ・放課後子ども教室の充実」24.3%

⇒ 費用負担と施設整備に関する要望が多い。

◆同就学前

ニーズ調査集計結果から把握できる課題について（自由記述）

ニーズ調査の自由記述から声の多かった案件等を主にとりまとめた。

1. 就学前

1. 市政、まちづくり、公園・道路・遊び場に関すること

- ・ 図書館の設置・整備、公園の点検・整備（砂場の整備、草刈りをしてほしい、サビがあり、以前けがをした）、遊具が少ない（鉄棒がない）、遊べる公園が少ない
- ・ 雨の日でも遊べる場所が欲しい（児童館等）
- ・ 歩道・通学路の整備、街灯の見直し
- ・ 産婦人科・小児科が少ない、救急診療施設の設置（深夜、土日祝日対応）

◆ハコモノはないから作る、という話はないので、不便しないような環境を提供できるか、という考え方になる（連携、相互利用等）。例えば、図書館は、相互提携という形で隣接市民が利用できるところがある。また、怪我をする遊具は対応優先順位を上げるべきなので、保護者、幼稚園、保育園、小学校にも近隣の公園等で怪我をした場合の要修理遊具については、情報提供を依頼する。

2. 子育て支援サービスに関すること

- ・ ファミリーサポートセンターの利用について（希望はあるが、サポート側の情報が見えにくい）

- ・相談窓口の対応（解決しない、傷ついた）
- ・チーパスの有効期限が切れる前に新しいチーパスが届くようにして欲しい。
- ◆ファミリー・サポート・センターは、潜在利用希望者が多いと見込まれる、サポート側の情報提供（〇〇地区にサポータ△人等）含めた、周知を推進する（保護者が行く機会の多い場所等へのパンフレット配置等）

3. 妊娠期・子育て環境・生活環境に関すること

- ・子育て支援センターが欲しい（土日利用可能であるとより望ましい）
- ・子育て支援センターと保育所が一緒になっている所は利用しづらい。
- ・母親学級の開催（市で開催しているものがない）
- ◆子育て支援センターについては前述（調査項目）

4. 家庭経済に関すること

- ・保育料軽減／妊婦健診の料金軽減
- ・医療費負担の見直し、軽減（現状200円→0円）
- ◆家庭経済については前述（調査項目）

5. 保育園、幼稚園に関すること

- ・一時預かり保育が使いにくい（定員いっぱい、リフレッシュ目的不可等）
- ・保育園が希望時期に利用できない／自宅から遠い
- ◆一時預かりの利用目的については、「リフレッシュ目的」はガイドに記載されている。園による解釈の違いがあれば修正が必要。

6. 学童保育に関すること

- ・学童利用についての不安（就学後に学童保育が利用できるか心配、長期休暇時のみの利用希望、学童終了時間帯の延長をしてほしい）
- ◆申し込みに対して、利用可能な人の人数、割合など差支えのない実績値を公表してはどうか。実際にはその方の個別の状況になると思われるが、情報を開示することで不安解消につながる場合もあると考えられる。

7. 医療に関すること

- ・市内に産婦人科、出産できる医療機関がない
- ◆まずは、不便のないように情報提供することから、市外であっても産婦人科、小

児科等の医療機関名、診察時間等が記載された一覧等を「子育て支援ガイド」に掲載する。

2. 小学生

1. 公園、遊び場等について

- ・公園の点検・整備（草刈りをしてほしい、木が高く防犯上不安、設備の老朽化が激しい）、ボールで遊べる・野球等ができる公園がない、歩いて行ける公園がない
- ・児童館設置
- ・雨の日でも遊べる場所が欲しい（児童館等）

◆同就学前

2. 放課後児童クラブ（学童保育）、放課後子ども教室について

- ・学童保育が利用できない（共働き等、条件により）、定員数が少なく入れない
- ・学童保育の長期休暇時のみの利用希望
- ・学童保育終了時間帯の延長（19時以降）
- ・学童保育料金の軽減
- ・放課後子ども教室設置
- ・学童保育の市又は民間事業者等での運営（保護者運営施設での保護者の負担が大きすぎる）

◆放課後児童クラブについては、曜日、時間等含め運営体制の課題があるような状況である。受入枠拡大に対して、対応する人員については、子育てが終わった方のボランティア活動等も検討できるのではないかな。

3. 図書館・児童館について

- ・図書館の設置、整備、本の補充

◆同就学前

4. 学校環境（学校の統廃合・スクールバス・通学路）について

- ・小学校の老朽化（床がもりあがっている、エアコン設置、トイレリフォーム、ハチや蛇等に対する安全対策）
- ・歩道・通学路の整備、街灯の見直し

5. 教育内容、学校運営等について

- ・ P T A、地区、子ども会の役員の負担が大きい（子どもの数が減っているのに、役員数が減らないのですぐに回ってくる）

6. 子育て環境全般について

- ・ 情報提供（チラシ、ポスター、回覧板、ホームページ等）の充実
- ◆保護者のニーズに対し、情報提供の方法、機会によって対応できる場合も多いと考えられる。まずは、「子育ての話 何でも聴きます窓口」や「子育て支援センター」の利用推進のため、保護者の多くが立ち寄るような、大型ショッピングセンターの授乳室へのチラシ、ポスターの配付や見る可能性が高い乳児医療症等の郵送時の案内同封等により周知を進める（相談のきっかけは全ての問題把握の入り口でもあるので、ここを重点化する効果は大きいと考える）。

7. 手当、補助等負担の軽減について

- ・ 保育料、乳児医療費の軽減

8. 家庭経済状況や教育の助成について

- ・ 高校卒業までの子育て支援希望（子供手当、公立・私立無償化、助成金支給）

9. 医療費等について

- ・ 医療費負担の見直し、軽減（現状200円→0円）、助成対象拡大（高校生まで）

10. 医療・保健サービスについて

- ・ 耳鼻科、小児科、皮膚科の設置

11. 子育て支援サービス等について

- ・ 情報を検索しても分かりにくい
- ・ これまで（H27～）取り組んだ内容と成果を示すことで少子化対策になるのではないか
- ◆（一般的に）課題や不足しているものがあぶりだされることが多い計画書であるが、それに終始すると「ないものばかり」という印象になってしまう。富津市の取組で好評なものや自由記述でも良いコメントをピックアップすることで、富津市での子育てに対する安心感を得てもらうことができるのではないか？（自画自賛的な内容になるかもしれないが、ポジティブに考えてもらえる機会になる）。